

## **2018年3月期 第2四半期決算説明会**

---

**『価値』を追求し、『信頼』される  
グッド・カンパニーへ**

**伊藤忠食品株式会社  
代表取締役社長執行役員 高垣 晴雄  
2017年10月30日**

## 目次

---

1. 業績説明	…P3
2. 2018年3月期計画	…P15
3. 重点取り組み	…P17
4. 補足資料	…P28

## 決算ハイライト

P/L

## 増収増益

(単位: 億円)

	当第2四半期		前年 同期比	計画比
	売上比			
売上高	3,340	-	104.2%	101.2%
売上総利益	175	5.2%	102.9%	100.2%
販売管理費	159	4.8%	102.2%	98.6%
営業利益	15	0.5%	110.5%	120.3%
経常利益	19	0.6%	107.2%	113.9%
特別損益	8	-	-	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	18	0.6%	132.6%	143.6%

## &lt;当第2四半期決算&gt;

- ・計画比: 増収増益
- ・前年比: 増収増益
- ・10月23日に業績予想の修正を公表
- ・本説明会では5月1日に開示した当初計画との比較で説明

## &lt;計画比&gt;

- ・売上高は概ね当初計画通り
- ・利益面では、売上総利益が計画並みに着地したこと、  
またコスト圧縮により経費が減少し増益

## &lt;前年比&gt;

- ・売上高は新規取引の増加、既存得意先との取引深耕により増加
- ・利益面では、増収により販売管理費が増加したものの、  
売上総利益が4億円増加したことなどにより増益

## 決算ハイライト

(単位：億円)

B/S

	当第2四半期末	前期末	増減額
流動資産	1,838	1,515	322
固定資産	588	597	▲9
総資産合計	2,426	2,113	312
負債合計	1,609	1,316	293
純資産	816	797	19
自己資本比率	33.6%	37.7%	▲4.1%
1株当たり 純資産(円)	6,433.39	6,280.07	153.32

## &lt;総資産増加の主要因&gt;

- ・増収及び月末決済日が休日であったことによる、売上債権と未収入金の増加

## &lt;負債増加の主要因&gt;

- ・増収及び月末決済日が休日であったことによる、仕入債務の増加

## &lt;純資産増加の主要因&gt;

- ・利益剰余金等の増加

## &lt;1株当たり純資産増加の要因&gt;

- ・利益剰余金等の増加

## キャッシュ・フローの状況

(単位：億円)

キャッシュ・フロー	当第2四半期	主な要因
現金及び現金同等物の 期首残高	190	
営業活動による キャッシュ・フロー	117	休日要因、 税引前四半期純利益
投資活動による キャッシュ・フロー	5	固定資産の売却
財務活動による キャッシュ・フロー	▲8	配当金支払等
現金及び現金同等物の 期末残高	305	

&lt;投資活動によるキャッシュフロー 主な要因&gt;

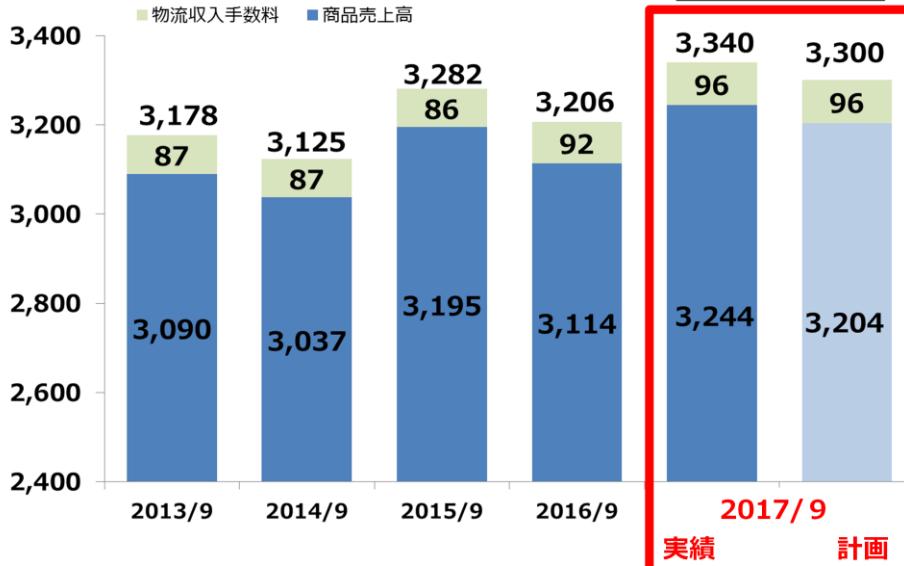
- ・遊休となった物流センターの売却など

## 売上高

(単位：億円)

### 前年比4.2%の增收

### 当第2四半期



#### <売上高>

- ・前年比134億円の増加

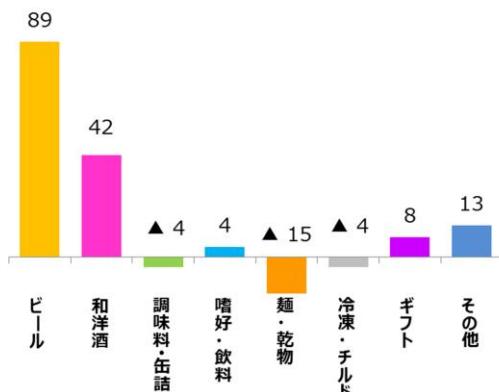
#### <主な要因>

- ・商品売上高  
組織小売業との取引深耕、新規取引増加により130億円増加
- ・収入手数料  
一括物流センターの取り扱い増により、4億円増加

## 商品分類別売上高

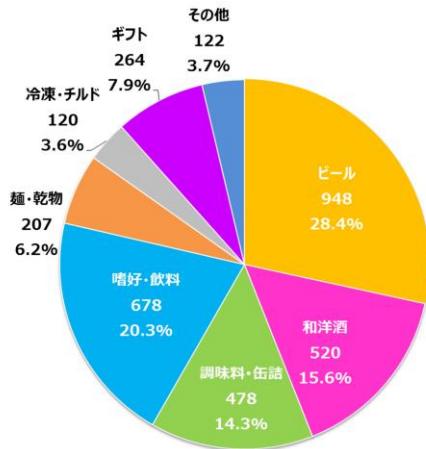
**商品分類別 売上高増減金額**

(単位 : 億円)



**商品分類別 売上高・構成比**

(単位 : 億円)



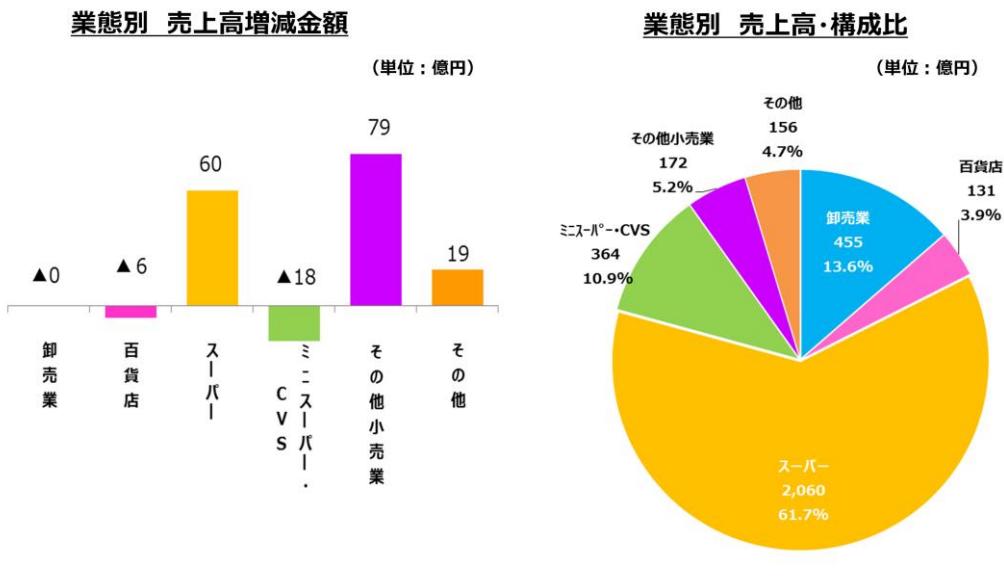
<「ビール」／「和洋酒」増加の主な要因>

- ・酒類分野の提案強化による、新規取引の拡大

<「麺・乾物」減少の主な要因>

- ・一部取引先の帳合変更

## 業態別売上高



<「スーパー」増加の主な要因>

- ・組織小売業との取引深耕

<「その他小売業」増加の主な要因>

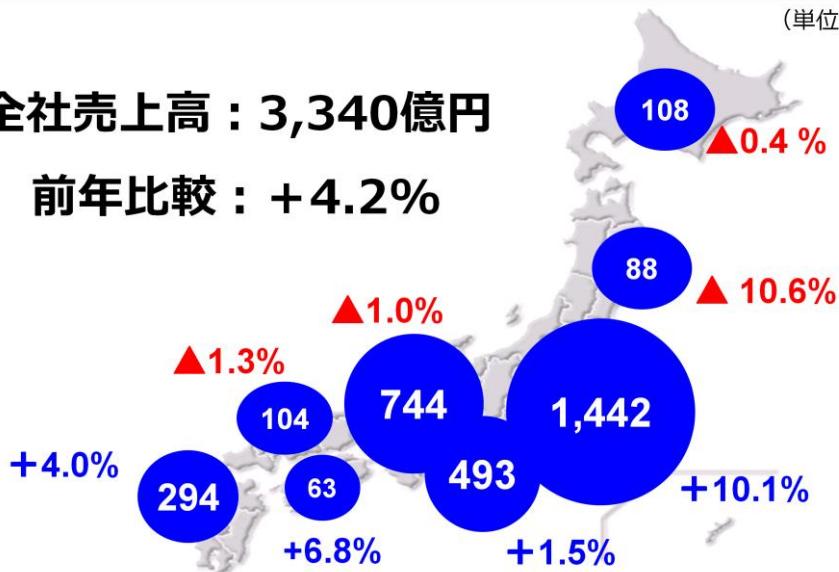
- ・業務用酒販店との取引増加

## エリア別売上高

(単位：億円)

全社売上高：3,340億円

前年比較：+4.2%



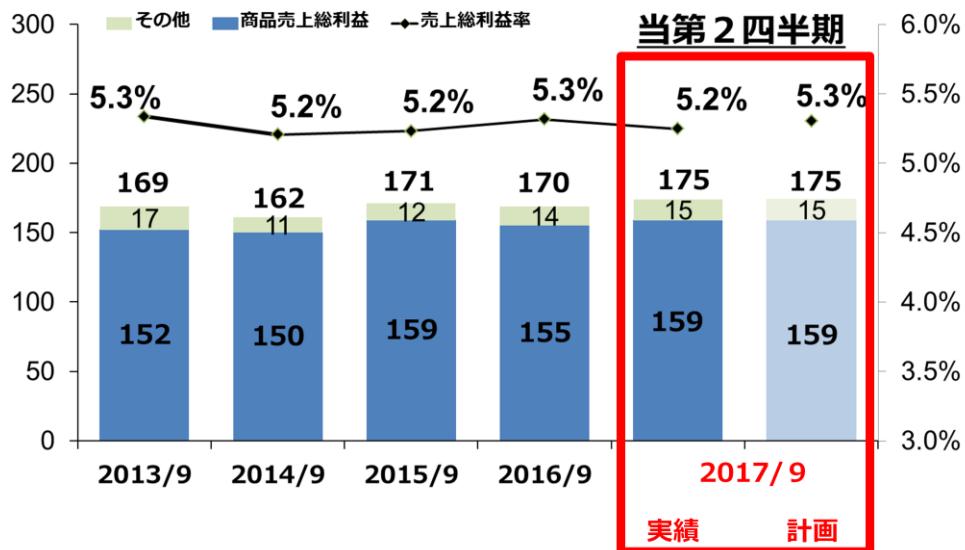
### <エリア別売上高>

- ・関東、東海、関西の三大都市圏で全体の約80%
- ・関東、東海、四国、九州が増加

## 売上総利益

利益額 前年比2.9%の増加

(単位：億円)



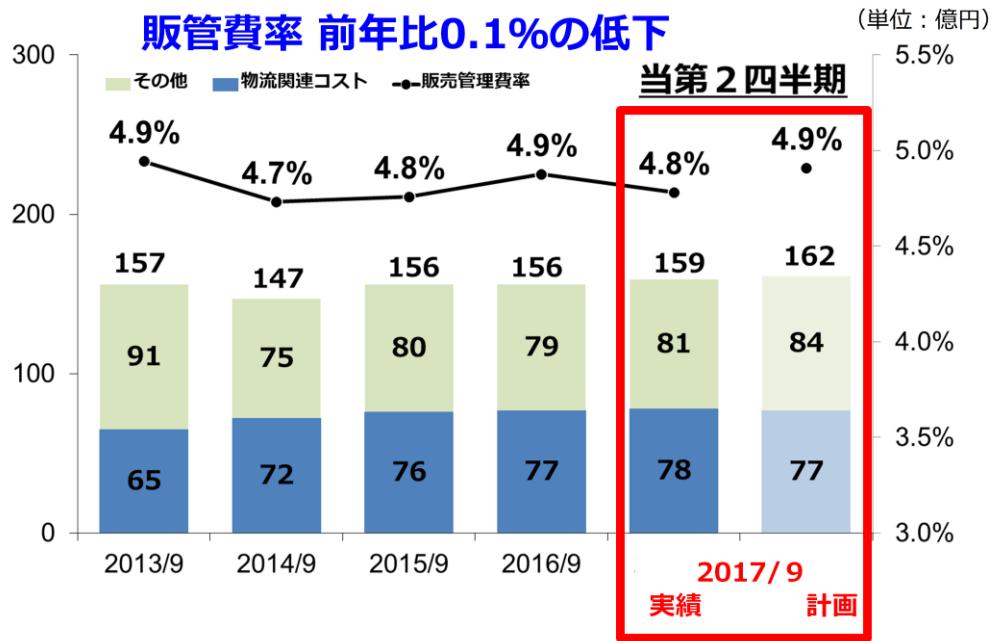
### <売上総利益>

- ・前年比4億円増加

### <主な要因>

- ・商流関係  
増収により前年比3億円増加
- ・物流関係  
一括センターの取り扱い増などにより前年比1億円増加

## 販売費及び一般管理費



### <販売管理費>

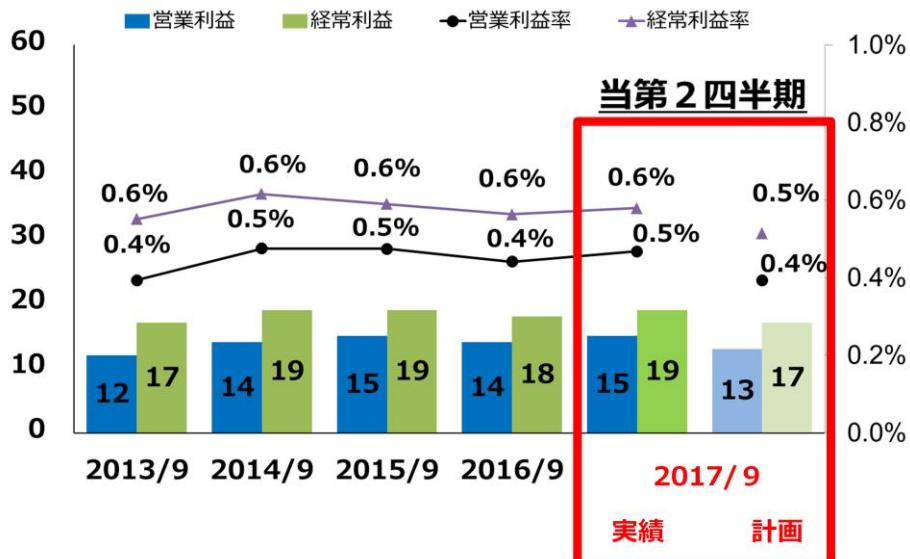
- ・前年比で3億円の増加
- ・販管費率は前年比0.1%低下

### <主な要因>

- ・増収により物流経費を中心に増加

## 営業利益・経常利益

(単位：億円)



## &lt;営業利益&gt;

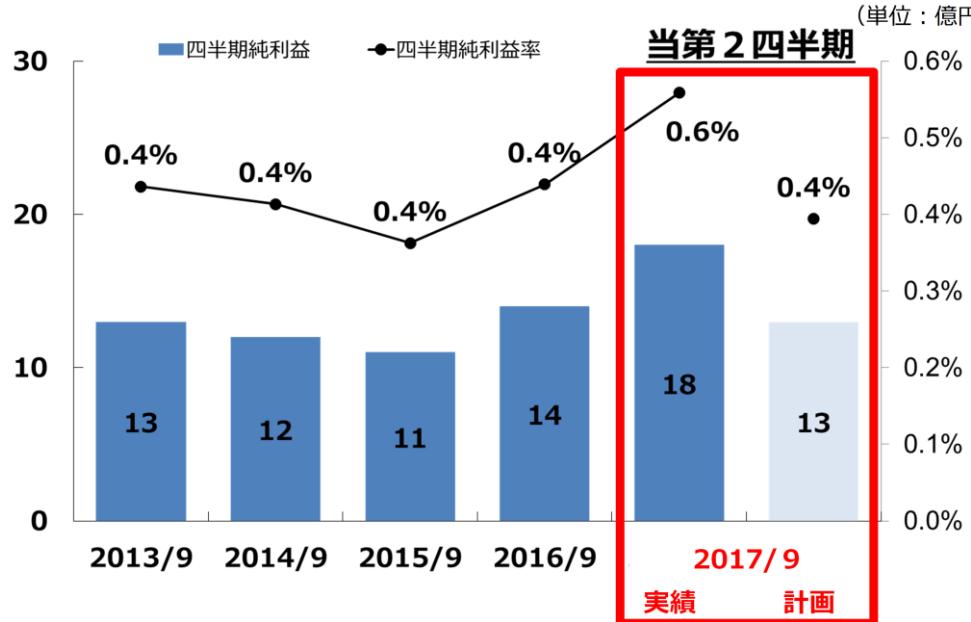
- ・前年比1億円の増加

## &lt;経常利益&gt;

- ・前年比1億円の増加

## 親会社株主に帰属する四半期純利益

(単位：億円)



## &lt;四半期純利益&gt;

- ・前年比4億円の増加

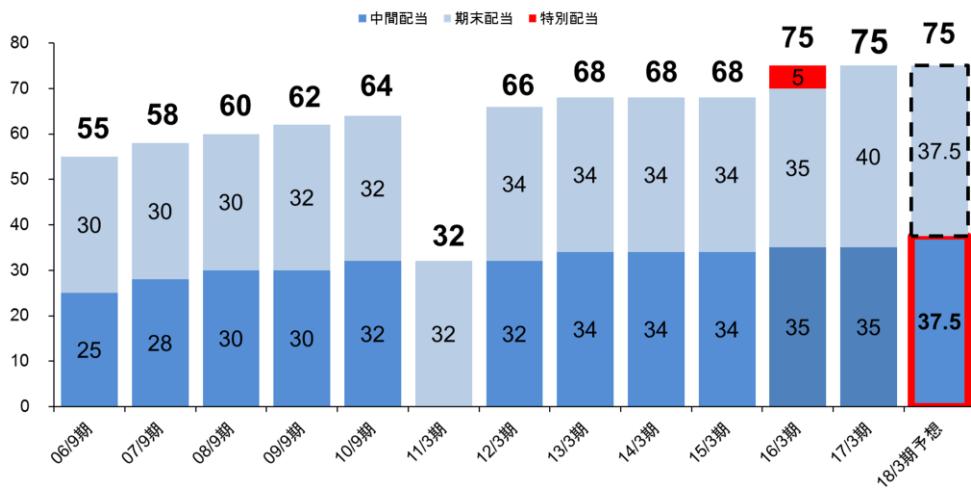
## &lt;主な要因&gt;

- ・特別損益を8億円計上など

## 株主還元（配当）

### 安定配当を継続

単位：円



#### <配当>

- ・中間配当は計画どおり37.5円
- ・期末配当37.5円と合わせて、年間配当金は75円を計画

## 2018年3月期計画

---

# 2018年3月期計画

(単位：億円)

	17年3月期 実績		前回発表計画		18年3月期 修正計画		前年 同期比	
	売上比		売上比		売上比			
売上高	6,310	-	6,600	-	104.6%	6,600	-	104.6%
営業利益	37	0.6%	39	0.6%	103.2%	42	0.6%	111.1%
経常利益	45	0.7%	46	0.7%	100.7%	49	0.7%	107.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	33	0.5%	33	0.5%	97.9%	39	0.6%	115.6%

## <2018年3月期計画>

- ・10月23日、通期計画修正を公表
- ・上期に引き続き下期も、採算強化、コスト圧縮に努めることで  
売上・利益ともに前年実績を上回る見込み

## **重点取り組み**

---

## 外部環境

### 個人消費の回復に遅れ 先行きの不透明感が続く

国内外  
社会環境  
変化

東アジア地域情勢の不透明感

IOT・AI・自動運転技術等の進化加速

業界動向  
環境変化

消費の二極化、生活防衛意識の継続

業種・業態の垣根を越えた競争の激化

人手不足、労働コストの上昇

### 6つの卸機能 ブラッシュアップ<sup>®</sup>



＜中核事業の拡大・深耕＞

- ・6つの卸機能をさらにブラッシュアップ
- ・特に「マーケティング」「マーチャンダイジング」機能はこれまで以上に磨きをかける

## 酒類分野

### 『ベルルッキ』日本における独占販売契約締結 『ミオネット』アイテム拡充



#### <酒類分野>

##### (ベルルッキ)

- ・イタリア フランチャコルタのパイオニア「ベルルッキ」と日本における独占販売契約を締結
- ・本年11月より百貨店・業務用ルート向けから販売開始
- ・フランチャコルタ…イタリアで初めて瓶内二次発酵(トライディショナル製法)で醸造されたスパークリングワイン

##### (ミオネット)

- ・新たなラインナップとして、「プレステージコレクション」4品を導入
- ・業務用向け「MOコレクション」2品と合わせて、合計6品へ拡充
- ・「ベルルッキ」「ミオネット」の日本国内におけるブランドづくりに取り組み、酒類分野において新しい「価値」を提供

## ブランド商品開発

### 『ブランド商品開発』 取扱いブランド充実



CHOCOLATE BY THE BALD MAN  
MAX BRENNER



Joël Robuchon

Hotel Okura



FLO  
PRESTIGE  
PARIS

紅虎餃子房



#### <ブランド商品開発>

- ・当社の特徴であるブランド商品開発を引き続き強化
- ・得意先様と一緒に商品開発に取り組む
- ・重点カテゴリーとして、アイス、冷凍惣菜、クリスマスケーキ、おせち等を強化

## MD機能強化

『地域産品』『ヘルス＆ビューティ』  
『ワイン＆スピリッツ』『ギフト』『惣菜・デリカ』



### <MD機能強化>

- ・本年4月にMD推進本部を新設
- ・全社的なMD機能の強化に取り組む

#### (地域産品)

- ・地域産品の地産全消を目指した取り組みとして、引き続き注力  
今期は「東京セレクション2017」「平成の薩長土肥連合」などの企画を展開

#### (ヘルス＆ビューティ)

- ・健康志向の高まりや、オーガニック＆ナチュラル志向の浸透から市場が拡大傾向  
昨年より提案を進めている「ネイチャースイートソース」「オーガニックワイン」に加え  
「オーガニックビール」「ビューティカカオ」「ヘルシースナッキング」など様々な切り口から提案を進める

#### (ワイン＆スピリッツ)

- ・昨年12月に資本業務提携をしたリードオフジャパンと協業を進めながらMD機能強化

#### (ギフト)

- ・MD強化に加え、自社カタログ「パルディス」の更なる充実や、ギフト業務の受託などを進める

#### (惣菜・デリカ)

- ・本年4月に新設した「惣菜事業部」を中心に提案を進める

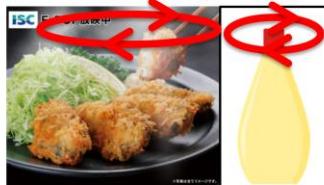
## マーケティング機能強化

### 店頭コミュニケーションチャネル 『E-POP』設置店舗拡大

小売枠



クロス番組



単独CM



#### <マーケティング機能強化>

- ・デジタルサイネージを活用した店頭コミュニケーションチャネル「E-POP」
- ・提案開始以降、順調に設置台数増加
- ・今後も「E-POP」を活用した新たな仕掛けも検討

## 物流改革

### 『物流改革』の推進

- ・物流拠点再編
- ・配送費低減に向けた取り組み
- ・自動化に向けた取り組み



#### <物流改革>

- ・全社的な「物流最適」「物流改革」を推進するため、本年10月にロジスティクス企画部を新設  
(主な取り組み)
  - ・物流拠点再編
  - ・配送費低減に向けた取り組み
  - ・自動化に向けた取り組み

## グループ会社の取り組み

『アイ・エム・シー』  
店舗運営・  
催事事業の拡大



『スハラ食品』  
道産品販売の充実



### <グループ会社の取り組み>

(アイ・エム・シー)

- ・百貨店を中心とした流通小売業へのリテールサポート及びテナント、食品催事の企画運営事業を強化、推進

(スハラ食品)

- ・今年創業110周年を迎えた北海道エリアの卸売業
- ・同社の調達ネットワークを活かして、道産品の道外への販売や、北海道原材料を活かした商品開発を強化

## CSR・CSVの取り組み

**5回目となる『商業高校フードグランプリ2017』を  
国際オーガニックEXPOで開催**



**CSRから  
CSVへ  
共有価値の創造を  
目指します**

### <CSR・CSVの取り組み>

- ・当社は2012年にCSR基本方針を定め、CSR活動を推進
- ・2013年から毎年「商業高校フードグランプリ」を開催
- ・この取り組みを、本業を通じて社会課題を解決するCSV(共有価値の創造)と位置付け  
取り組みを推進



## ISC 伊藤忠食品株式会社

本資料は2018年3月期第2四半期決算の業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。また本資料掲載の事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、今後予告なしに変更することがあります。

本資料は、2017年10月30日現在のデータに基づき作成しております。

## 補足資料

---

- P. 29 商品分類別売上高
- P. 30 業態別売上高
- P. 31 エリア別売上高
- P. 32 P L推移
- P. 33 株式状況
- P. 34 会社情報

## 商品分類別売上高

【連結】

(単位:百万円)

商品分類別売上高	当期	構成比	前年同期比	前年同期	構成比	増減額
ビール	94,839	28.4%	110.5%	85,859	26.8%	8,980
和洋酒	52,041	15.6%	108.8%	47,816	14.9%	4,224
調味料・缶詰	47,899	14.3%	99.1%	48,338	15.1%	▲ 438
嗜好・飲料	67,826	20.3%	100.7%	67,378	21.0%	447
麺・乾物	20,706	6.2%	93.2%	22,223	6.9%	▲ 1,516
冷凍・チルド	12,072	3.6%	96.4%	12,522	3.9%	▲ 450
ギフト	26,450	7.9%	103.2%	25,631	8.0%	819
その他	12,246	3.7%	112.9%	10,848	3.4%	1,397
合計	334,083	100.0%	104.2%	320,619	100.0%	13,464

(ギフトの内、酒類 12,681)

## 業態別売上高

【連結】

(単位:百万円)

業態別売上高	当期	構成比	前年同期比	前年同期	構成比	増減額
卸売業	45,541	13.6%	100.0%	45,560	14.2%	▲ 18
百貨店	13,145	3.9%	95.6%	13,749	4.3%	▲ 603
スーパー	206,031	61.7%	103.0%	199,988	62.4%	6,042
ミニスーパー・CVS	36,413	10.9%	95.2%	38,230	11.9%	▲ 1,816
その他小売業	17,284	5.2%	185.2%	9,330	2.9%	7,954
メーカー他	15,665	4.7%	113.9%	13,759	4.3%	1,906
合計	334,083	100.0%	104.2%	320,619	100.0%	13,464

## エリア別売上高

【連結】

(単位:百万円)

エリア別売上高	当期	構成比	前年同期比	前年同期	構成比	増減額
北海道	10,842	3.2%	99.6%	10,883	3.4%	▲ 40
東北	8,885	2.7%	89.4%	9,933	3.1%	▲ 1,048
関東甲信越	144,295	43.2%	110.1%	131,105	40.9%	13,189
東海北陸	49,316	14.8%	101.5%	48,601	15.2%	715
近畿	74,448	22.3%	99.0%	75,212	23.5%	▲ 764
中国	10,447	3.1%	98.7%	10,583	3.3%	▲ 136
四国	6,358	1.9%	106.8%	5,955	1.9%	403
九州沖縄	29,489	8.8%	104.0%	28,343	8.8%	1,146
計	334,083	100.0%	104.2%	320,619	100.0%	13,464

## P L 推移

【連結】

(単位:百万円)

	14年3月期 通期		15年3月期 通期		16年3月期 通期		17年3月期 通期		当第2四半期	
	実績 売上比		実績 売上比 前年比		実績 売上比 前年比		実績 売上比 前年比		実績 売上比	
売上高	630,464		617,606	98.0%	653,016	105.7%	631,002	-	96.6%	334,083 -
売上総利益	34,439	5.5%	33,085	5.4% 96.1%	35,108	5.4% 106.1%	34,865	5.5% 99.3%		17,536 5.2%
販売管理費	31,134	4.9%	29,415	4.8% 94.5%	31,124	4.8% 105.8%	31,085	4.9% 99.9%		15,972 4.8%
営業利益	3,304	0.5%	3,670	0.6% 111.1%	3,983	0.6% 108.5%	3,779	0.6% 94.9%		1,564 0.5%
経常利益	4,226	0.7%	4,508	0.7% 106.7%	4,669	0.7% 103.6%	4,565	0.7% 97.8%		1,936 0.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,256	0.5%	2,581	0.4% 79.3%	3,002	0.5% 116.3%	3,372	0.5% 112.3%		1,866 0.6%

## 株式状況

### ◆大株主（2017年9月30日現在）

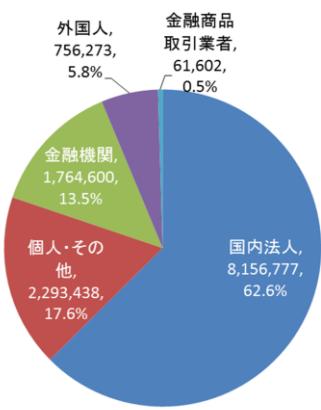
株主名	所有株式数（株）	所有株式数比率（%）
伊藤忠商事株式会社	6,620,316	50.79
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 （三井住友信託銀行再信託分・アサヒビル株式会社退職給付信託口）	815,000	6.25
味の素株式会社	339,129	2.60
アサヒビル株式会社	296,500	2.27
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託みずほ銀行口再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社	249,300	1.91
伊藤忠食品従業員持株会	150,000	1.15
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	141,100	1.08
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	118,900	0.91
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口S）	91,000	0.69
はごろもフーズ株式会社	87,100	0.66

（注）上記のほか、自己株式が345,289株あります。

### ◆株式の総数・株主数

発行可能株式総数 **40,000,000株**  
 発行済株式の総数 **13,032,690株**  
 株主数 **12,616名** （前期末比較 2,024名減少）

### ◆所有者別 株式分布状況



## 会社情報

### ◆概要（2017年9月30日現在）

■商号	伊藤忠食品株式会社	
■創業	明治19年2月11日（1886年2月11日）	
■設立	大正7年11月29日（1918年11月29日）	
■資本金	4,923,464,500円	
■従業員数	連結 1,127名、個別798名	
■事業内容	酒類・食品の卸売およびそれに伴う商品の保管、運送ならびに各種商品の情報提供、商品流通に関するマーチャンダイジング等を主とした事業活動を展開しています。	
■本店所在地	大阪市中央区城見2丁目2番22号	TEL 06-6947-9811
	大阪 大阪市中央区城見2丁目2番22号	TEL 06-6947-9811
	東京 東京都港区元赤坂1丁目2番7号	TEL 03-5411-8511
■インターネットホームページ	<a href="https://www.itochu-shokuhin.com/">https://www.itochu-shokuhin.com/</a>	

### ◆沿革

- 1886年 明治19年2月 武田長兵衛商店より洋酒食料部門を譲り受け、洋酒食料品雑貨の直輸出入商および卸問屋業の松下善四郎商店（本社：大阪市）を創業。
- 1918年 大正7年11月 松下善四郎商店を改組して(株)松下商店（資本金1百万円 本社：大阪市）を設立
- 1971年 昭和46年3月 (株)鈴木洋酒店（本社：東京都中央区）と合併し、商号を松下鈴木（株）に変更。
- 1982年 昭和57年10月 伊藤忠商事（株）（本社：大阪市）と資本・業務提携し、営業および管理機能の強化を図る。
- 1996年 平成8年10月 (株)メイカン（本社：名古屋市）と合併し、商号を伊藤忠食品（株）に変更。
- 2001年 平成13年3月 東京証券取引所市場第一部に上場。（証券コード：2692）
- 2016年 平成28年2月 創業130周年